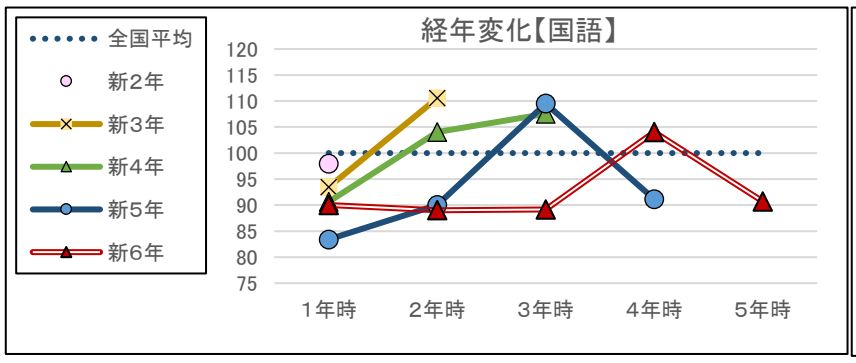
令和７年度	釧路市立大楽毛小学校　　学力向上プラン

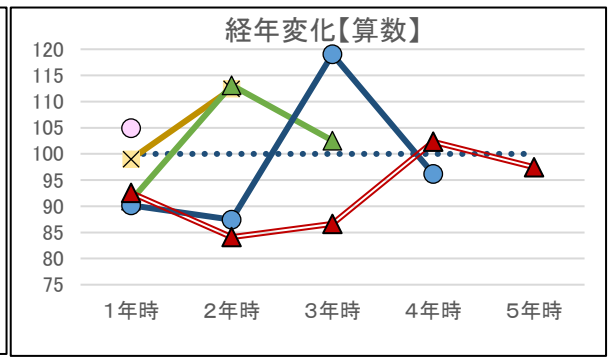
公表用
2025/4月 発行

Ⅰ　前年度の各種調査から見られる学校の状況

① 各学年の標準学力検査の経年変化（全国平均を100とする標準スコア）

※釧路市では、３～６年生を対象に標準学力検査を実施していますが、本校では、独自に●年生においても実施しています。





② 学校の状況

□経年変化で結果として下がった学年が多く、学校として危機意識を持っている。
□本校児童全体の傾向として「読むこと」に課題がみられている。日常的な読書や読み聞かせの指導、朝学習や授業、放課後学習等でまとまった文章を読むことについて指導してきたが、より効果的な指導ができるよう、研修を深めていく必要を感じている。
□一方で「書くこと」については、学校全体として力がついてきている事項である。テーマや条件を与えて書くこと（タブレットで打ち込むこと）等の経験を多く積ませること、それを共有、相互評価することによって力を伸ばすことができたと分析しているので、今後も継続したい。
□家庭での会話量や会話の内容、言語環境に影響を受けている部分は依然として大きいので、授業において言語環境を整えること、児童の「言葉の力」を培うような学習内容に取り組ませることを行ってきたので､今後も継続する必要がある。
□算数科においては、「数と計算」、「変化と関係」の領域に課題が見られる学年が多く、授業内容の改善はもとより、朝学習や「おたけん」、放課後学習などと連動させ、基礎・基本の定着を図ることに一層注力する必要を感じている。
□算数科における「思考力・判断力・表現力等」の弱さが依然課題ではあるものの、授業づくりに真剣に取り組む教員の努力によって、より考える意味のある課題設定や、共に考え学び合う必要がある学習展開がなされるようになってきており、力を伸ばした部分がある。一方で知識・技能が極端に落ちている学年もあり、これは指導の問題と捉え、改めてデジタルとアナログのベストミックスを探り、ICTのより効果的な活用法について考えるきっかけとなっている。
□本校において、「学校のきまりを守る」「家の人と決めた約束やきまりを守っている」という児童（６年生調べ）が９割以上いるなど規範意識は高い。また、今年度学校全体で力を入れて指導してきた｢挨拶｣についても児童自身が「できている」と感じる割合が１００％、「自分の力をできる限り伸ばしたい」と考えている児童が９割以上となっており、学校での粘り強い取組がカタチになり始めていることを実感している。しかし、依然として家族とのコミュニケーションが不足しがちで、努力や善い行いを十分に評価してもらっていない児童が一定数おり、自分に自信が持てない様子がうかがえるため、学校での様々な取組により自己存在感、自己有用感を味わわせていく必要がある。
□今年度は「釧路市が目指す授業」の中から自分として課題だと感じている部分を取り上げ、課題解決型の研修を進めてきた。同じような課題を持つ者同士がチームとなり、リレー形式で課題を解決していくような形で授業改善に努めてきた。授業や児童についての話を放課後の職員室でしている場面は「日常」となり、授業力の向上につながってきている。

Ⅱ　今年度の学力向上に係る重点取組

① 学校全体での取組

授業づくり	学習集団づくり	学習習慣・環境づくり
・身に付けさせたい資質・能力を明確にした、児童が学ぶ意味と学ぶ楽しさを感じられる「子供主体の授業」へのブラッシュアップ。具体的には、優れた授業実践を｢見る｣機会を多く設けたり、個人課題を解決する課題解決型研修をさらに充実させていくこと、自身の授業の振り返りをしっかり行っていくこと等。	・挨拶、返事、廊下歩行のルール、履き物を揃える､身の回りの整理整頓をするなど､当たり前のことが当たり前にできるよう､今後も継続して､全教職員が同一歩調で指導を行う。できていることを価値付け、できた喜びを共有する教職員と児童であるよう、日常的な信頼関係の構築を大切に、心理的安全性の高い学校を目指す。	・本を読む習慣作りのため、地域・保護者を巻き込んだ活動を考え、提案、実行していく。また、読書タイムをより充実させ、隙間時間や業間にも進んで本を読む習慣をつける。給食後やテスト後などの隙間時間に読書を行うことを全教職員が揃えて指導する。
・ＩＣＴをより効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、子供の学力を向上させる授業づくり。	・チャレンジすることをためらわず､小さなチャレンジでも価値のあることとして称賛し、子供たち一人ひとりが「やればできること」を感じられるよう「やる気｣に灯をともす教育の実践。各々のチャレンジを喜び合う機会の設定。	・朝学習では、授業との連動や、前時までの学びの復習や、定着が不十分なところの補充など、明確な意図をもって丁寧に取り組む。その際、適宜ＩＣＴを活用し、より効果的に進める。
・｢単元全体のマネジメント・1単位時間のタイムマネジメント｣､｢授業における思考力・判断力・表現力等の育成｣に課題があるので単元デザインの力を付け｢問い・発問｣の精選、思考したことを表現する学び合いの場の充実を図る。	・本校の重点目標のひとつである｢思いやり・優しさ｣の第一歩は相手の話に耳を傾け､相手の心を慮ることである。このことから､｢話すこと・聞くこと｣について、相手意識を持つよう継続して指導していく。	・放課後学習サポート「まなびや」は特訓制度を継続する。また、特に補充が必要な児童への指導を確実に行う場にしていく。そのため、担任、担任外、放課後学習サポートスタッフが協力・連携し指導に当たる。
・総合的な学習の時間を軸としたカリキュラムマネジメントの充実。義務教育９年間を通した総合的な学習の時間の計画を立て、教科横断的な視点、地域や生活に根ざした学びの視点をもちながら各教科経営に当たること。 ・多様な学びの場の一層の充実と、児童一人一人のニーズを踏まえた授業づくりを通常の学級、特別支援学級両方で実践するための教師の学び合い。 ・	・愛情と信頼、友情を基盤とした学級経営を行い、学校が児童一人ひとりの居場所、心のよりどころとなるよう生徒指導の機能を生かした指導に努める。	・家庭学習の習慣化に向け取り組んできた、「家庭学習の内容について例を示す」、「ノートの作り方を示す」、「優れた取組を児童玄関等に掲示する」といったことについては今後も継続する。同時に、家庭学習の時間や内容を保護者と相談しながら計画し、その計画通りに実行することができるよう啓発に注力する。 ・端末の持ち帰りは日常化しているため、今後はさらに家庭学習と授業の連動を図るなど充実を図る。

② 各学年の指導の重点

１年生の重点	４年生の重点
・学習規律の徹底。小学校での学習の約束を丁寧に指導し、できるようになるまで粘り強く指導する。特に、挨拶・返事、学習用具の使い方やノート指導、聴く態度、丁寧に文字を書くことなどは徹底して指導する。 ・音読に力を入れ、声に出してリズムよく文章を読んだり、理解したりできるようにする。	・学びに向かう集団として大きく成長し「主体的に学習に取り組む態度」に係る問題への正答率が非常に高い。今後も継続して問題解決的な学習過程を踏みながら主体的に学びを深められるようにする。 ・家庭学習や授業でのミニテストなど様々な場面で学習の成果を振り返り、評価し価値付けてきたことが成果として表れているので、今後も適切な評価をフィードバックし、児童のやる気を喚起していく必要がある。

・具体物や半具体物を使いながら数と計算を楽しみながら理解できるようにする。分かったことを自分の言葉で説明する機会を多く持ち、定着を図る。 ・学習規律の徹底。学校は学ぶところ､という意識をしっかりと持たせる丁寧な指導を心がける。	・読み物に対する関心は高いが、一人で読解する力は弱い面が見られるので、過去の問題を解き直しして題意をとらえる練習をしたり、内容について感想を言い合ったり、問題を出し合ったりする活用を授業や朝学習で取り入れていく。 ・学習規律の徹底。
２年生の重点	５年生の重点
・話し手が知らせたいことを、正しく読み取ることに課題がある。特に聞き取った順に話を並べることに苦手さがあるので、子供や教師の話を聞いて、大切なことは何か、といったことを問う機会を日常的にもつ。 ・家庭学習の実施・評価や1分間スピーチなど、効果がある取組は継続し「書くこと」「話すこと・聞くこと」の力を高めていく。 ・既習事項を他教科や実生活の中で発揮できる場面を作り、学習したことが剥がれ落ちないようにする。 ・算数科において、提示された条件で文章問題を作ったり立式したりすることに課題が見られるので、日常生活とも結びつけながら問題作りや立式の場面を設ける。	・真面目に一生懸命学習に取り組む集団であるが、知識・技能、思考力・判断力・表現力等の両方について大きな課題があることから､丁寧に繰り返し学習をすることや、思考力・判断力・表現力等を培うような問題解決型の学習活動を展開する必要がある。 ・学習内容の剥がれ落ちが心配であることから、授業と朝学習、宿題を連動させ学習内容を定着させていく必要がある。今後も意図的・計画的に取組を進める。 ・ICTの活用に偏重することなく、児童にとって本時どのような学び方が最も効果があるのか、ということを意識した授業づくりに励むことが必要である。 ・やればできることを改めて実感できるような学級経営に努め、いろいろなことにチャレンジさせたり、学習したことと実生活を結び付けるような指導を心掛けていく。
３年生の重点	６年生の重点
・説明文や物語文を読み取る力、語彙力に課題が見られるので、読書を含め、文章を読む機会を増やし、語彙を増やす学習活動､読み取ったことをアウトプットする学習活動に力点を置く。 ・漢字や計算、掛け算九九などの知識・技能について朝学習や放課後学習、宿題等でも取り扱い、定着するまで継続し、剥がれ落ちないよう、復習する機会を設ける。 ・算数においては、量感の乏しさが課題を生んでいる傾向がうかがえる。長さやかさ、時刻と時間などに大きな課題があった。単位換算、見積もる力などを伸ばせるよう､今後も授業の改善を図っていく。 ・学習規律の徹底。 ・学力上位層と下位層の差が大きいので、全員がわかって楽しい授業をさらに意識し、授業の中で考えを｢伝える｣だけではなく、「伝え合い」の量と質を高めていく必要がある。	・学力差が大きく、最後まで粘り強く問題を解こうとする力、見通す力などに大きな課題が見られる。漢字や計算など基礎・基本の知識・技能の定着が不十分な児童が多く自己肯定感も低いため、まずは授業の中で「わかった、できた」をしっかりと実感できるような授業に仕立てていく必要がある。 ・漢字や言葉等の知識・技能の定着に課題があるため、授業中に取り組む事はもとより､朝学習や宿題、家庭学習と連動した取組を進めていく必要がある。 ・思考力・判断力・表現力等の力が、知識・技能の力よりも高い傾向の学習集団である。問題解決型の学習への適応感が強いといえる。ここは強みとして持ちつつ、基礎・基本の定着と徹底、学習集団としての高まりを目指す必要がある。 ・学習規律の徹底。 ・児童が主体的に学びに向かう集団を形成しようとする雰囲気を醸成する。役割を付与し、その成果について価値付けていくことで達成する。